

令和 7 年度 学校自己評価システムシート（県立岩槻北陵高等学校）

目指す学校像	地域の信頼に応え、節度と規律を重んじ、新たな自分の創造に向け、主体的に学び続ける生徒を育む学校
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の学ぶ意欲と確かな学力を向上させ、生徒一人ひとりの進路実現を図る 2 家庭・地域への情報発信を通じ、本校への理解を深める 3 基本的な生活習慣を確立させ、規律ある安心・安全な生活を送る 4 生徒の自主的活動を通じ、社会に貢献する心豊かな人間を育てる
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	10名

学校自己評価						
年度目標				年度評価（2月1日現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	ユニバーサルデザインの視点を授業に活かすなど、授業環境が整い、集中して授業を受ける生徒が増えている。引き続きユニバーサルデザインの視点から授業改善をおこない、個別最適化された学びを充実させることが課題である。また、学校全体でICT活用を促進し、一人一台端末の活用に継続して取り組む必要がある。 進路ガイダンスやインターンシップ等をととし、生徒の進路意識は向上している。生徒一人一人の進路実現を支援するためには、引き続き組織的な指導が必要である。	(1) 学びの質を高め、基礎学力を定着させる。 (2) 生徒一人一人が主体的に進路実現できるようにする。	①チャイム to チャイムを徹底し、落ち着いた授業環境を整える。 ②ICTの効果的な活用を促進し、一人一台端末をすべての授業で活用する。 ③朝学習、放課後・考査前勉強会を実施する。 ④巡回支援員等からのフィードバックや研修会を基に学習の個別最適化をおこなう。	①「チャイム着席」ができた割合95.0%以上(生徒アンケート) ②ICT、一人一台端末の活用状況調査(1月) ③各種学習会に参加する生徒数の維持(7月と12月比較) ④研修会の実施状況(7月) 巡回支援員、SC、SSW、教育相談員からのフィードバックを共有できたか(特別支援委員会毎)	○ICTの効果的な活用を進め、巡回支援員からのフィードバックを基に学習の個別最適化をおこなうなど学びの質が高まった。 ①チャイム着席ができた割合94.2% ②ICTを授業に活用した教科81% 一人一台端末の活用は授業毎に差がある。 ③学習会参加者 朝学・・・減少、放課後学習・・・増加、考査前勉強会・・・増加 ④7月に職員研修会を実施、巡回支援員毎にフィードバックを全体で共有した。	B 本校で取り組んできた「ユニバーサルデザインの視点」を今後の授業に活かし、生徒の実態に応じて学習の個別最適化を実現することが課題である。また、一人一台端末の効果的に活用は、今後も継続して研究が必要である。 【改善策】一人一台端末の効果的な活用 学習の個別最適化
2	地域行事への参加や小学校のクラブ活動等への参加など、地域との交流を積極的におこなっている。引き続き生徒の様子や学校の様子をタイムリーに発信することが課題である。また、統合に向けた情報を積極的に発信する必要がある。	生徒の様子や学校の取り組みをタイムリーに発信する。	①HPを適宜更新し、生徒や学校の様子をタイムリーに発信する。 ②学校からの通知等を保護者に一斉メールで配信する。 ③地域行事や小高交流活動に積極的に参加し、地域に貢献する。 ④メモリアルページを新設し、閉校舎に係る情報を発信する。	①学年・分掌・部活動等HPの更新回数(月平均5回以上) ②一斉メールの発信(各学期3回以上) ③地域行事・小高交流活動への参加状況。 ④メモリアルページの新設と情報発信、閉校舎イベントの情報発信ができたか。(各学期2回以上)	○HPを中心に生徒の活躍や学校の様子をタイムリーに発信した。 ①HP更新月平均7回(12月末まで) ②一斉メール 1学期5回 2学期3回 ③岩槻まつり(8月)に参加、徳力小あいさつ運動(7月、11月)クラブ活動を通じた交流(1学期) ④閉校舎イベントのページを新設(2学期)し適宜情報発信した。	A 閉校舎に向けてHPを整理し、新校HPに掲載してもらう情報と本校の記録を掲載するページを残すことが課題である。 【改善策】本校の記録情報の掲載、岩槻北陵高校のHPの継続
3	教職員の共通理解の下で、粘り強く指導しているが、基本的な生活習慣の改善を要する生徒も多い。生徒の規範意識を高め、基本的な生活習慣を確立するためには、引き続き、生徒自ら意識できるようにすることが課題である。また、安心安全な学校生活を保障するためには、事故やトラブルの未然防止が必要である。	生徒の規範意識を高め、安心・安全な学校生活を保障する。	①進路実現に向けて自ら身だしなみを意識できるように指導する。 ②昇降口での立哨指導、「遅刻0運動」を実施する。(通年) ③ネットトラブル防止に向けた啓発をおこなう。 ④交通安全指導や自転車安全利用推進講習会を実施する。(7月) ⑤防災訓練や薬物乱用防止教室をおこない、危機管理能力を高める。	①身だしなみ指導件数の減少(前年比) ②遅刻指導対象者数(15%減少) ③講習会の実施(年1回)「ネットトラブル注意報」等の周知 ④交通トラブル、苦情・事故件数の減少(前年比) ⑤防災訓練・薬物乱用教室の実施	○進路実現に向けて自らを律することができるように、全職員の共通理解の下で一貫して指導した。 ①身だしなみ指導数減 60件(前年比増) ②遅刻指導対象者2.0%増 ③講習会の実施(7月)ネットトラブル注意報(毎月Google Classroomで周知) ④交通事故は2件(R6:0件)、近隣からの苦情は前年度より減少した。 ⑤防災訓練(6月)薬物乱用防止教室(12月)を実施	B 安心安全な学校生活を保障するためには、事故やトラブルを未然に防ぐための啓発が必要である。学校全体で、組織的で一貫した生徒指導をおこない、一定の成果を得てきた。自律を促す生徒指導により、生徒の規範意識を高める必要がある。 【改善策】自律を促す生徒指導 事故防止に向けた啓発
4	文化祭等の学校行事では、生徒会役員や各委員会が主体的に活動している。引き続き自信につながる経験や体験をととして生徒の自己有用感を高めることが課題である。 全生徒の自己実現に向けて、現在活用している教育相談員やSC、SSW、日本語支援員、巡回支援員の配置を継続し、校内支援体制を維持することが課題である。	(1) 自信につながる経験や体験を通して生徒の自己有用感を高める。 (2) 校内支援体制を維持し、個に応じた支援をおこなう。	①各行事において生徒の意見を反映させ、生徒に主体的に運営させる。 ②団活動や委員会活動を維持し、生徒が活躍できる機会を増やす。 ③パラアスリートによる体験型講演会等の体験活動を通して人権感覚を育成する。 ④教育相談・特別支援教育委員会を定期的に開催し、生徒の情報を共有し、生徒に応じた対応を行う。 ⑤日本語支援員を活用し、多文化共生を推進する。 ⑥ライフスキルトレーニング(中途退学防止事業)を実施し、卒業後の生活を見通した支援をおこなう。	①行事における生徒の運営状況及び満足度80%以上。 ②団活動及び委員会等の活動状況。(前年比維持) ③パラアスリートによる体験型講演会等 人権感覚育成プログラムの実施(年2回以上) ④生徒の情報の共有状況、個に応じた対応ができたか。 ⑤対象生徒が継続的に日本語指導に参加できたか。 ⑥中途退学者数0人、ライフスキルトレーニングの実施(各学期1回以上)	○学校行事等における経験や体験が生徒の自信につながった。 ①学校行事の満足度は81.4% ②団・委員会活動は昨年度比維持 ③パラアスリートによる体験型講演会(11月)人権感覚育成プログラム(10月、12月) ○教育相談員やSC、SSW、と連携し、個に応じた支援をおこなった。 ①委員会を月1回開催し、生徒情報を共有し、個に応じて対応した。 ②対象生徒により参加率に差が生じた。 ③地域機関と連携したライフスキルトレーニングを実施した。(年6回)中途退学者0人は達成できなかった。	A 自信につながる経験や体験をととして生徒の自己有用感を高めることが有効である。 【改善策】一人一人が活躍できる学校生活 B 教育相談員やSC、SSW、日本語支援員、巡回支援員の配置を受けた取り組みを引き継ぐことが課題である。 【改善策】報告書・指導案の作成

学校関係者評価	実施日 令和 8年 2月 12日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの効果的な活用が高校の授業でどのようにおこなわれているのか気になっていた。生徒の皆さんから授業の様子を聞くことができよかった。 ・AIの活用が進みすぎること、弊害もあるのではないかと。良い面もあるが、従来の学習とのバランスを大切にしたい。 ・ChatGPTなどの活用については、使い方の指導や指導方法の工夫が必要。今後も研究して欲しい。 ・ライフスキルトレーニングの一つとして、テーブルマナーの講習を取り入れてもらったことは将来につながる貴重な経験になったと思う。 ・社会生活に必要なスキルは多くある。例えば、メイクなど学校生活では禁止されていたことも今後必要なスキルだと思うので講座などを実施してはどうか。 ・小高連携はお互いにWIN-WINの関係になればと思っていたが、生徒の皆さんの成長の機会となったことを嬉しく思う。 ・小学生との交流は、後輩のいない自分たちにとって年下と関わる良い機会だった。 ・一斉メールを通して、学校からの情報をより気にかけるようになった。ホームページやメールで多くの情報を発信していただき参考になった。 ・遅刻の主な原因が、心配していたとおり、スマホの影響が大きいように感じた。 ・進路実現に向けて自分で意識して取り組むことができた。 ・「ネットトラブル注意報」を保護者にも配信していることは良いことだと思う。 ・ネット犯罪も巧妙になっているので、トラブルに巻き込まれないための指導が必要だと思う。 ・生徒会の皆さんが主体的に企画し、学校行事を運営できたことはとてもよかったと思う。 ・3年生だけの学校生活で大変なこともあったと思うが、体験や経験の場が多くあったことは良かったと思う。 ・生徒会企画の運営を通して、みんなをまとめたことは今後につながる良い経験になったと思う。 ・ライフスキルは今すぐに必要になるものばかりではないが、今後の人生で必ず役に立つはず。 ・ライフスキルは幅広く、地域以外にもサポート機関はたくさんあるので実態に応じて活用するのは良いと思う。